

### (3) 研修内容の選択制

情報教育に関する基礎的・基本的内容を共通理解するためには、全職員による一斉研修が必要である。

しかし、コンピュータやソフトウェアの活用に関する研修は、教師間のスキル差も大きくなっていたり、周辺機器の数に限りがあったりするために、同じ内容を全職員で一斉に行う研修では、各個人のニーズにこたえることが難しい。

各個人のニーズにこたえるためには、少人数で、いくつかの課題から選択できるように研修形態を工夫することが必要である。

そのためには、情報教育担当者に任せただけでなく、教務係や研修係などとの連携を図り、全校態勢で取り組むことが大切である。

### (4) 研修成果の共有化

校内研修の中で、対象の学年や教科を絞り込み、研修の参加者がそれぞれデジタルコンテンツを検索し、單元ごとの指導案を分担して作成することで、研修成果を複数の教員が共有できることになる。

このように、研修成果を互いに共有できる工夫をすることが大切である。

### (5) 授業への反映

ICTを活用して分かる授業を展開するためには、研修の成果を授業で生かすための手だてを工夫する必要がある。

各学校では、年間指導計画に基づいた授業が展開されている。各教科の指導計画の中にコンピュータの活用場面やデジタルコンテンツの活用例などを明記する

ことが必要である。

各教科等の指導計画において、具体的な場面での活用を意識した研修内容を考えることが大切である。

## 3 校内研修の実践例

当センターの短期研修講座「情報教育推進担当者講座」では、情報教育に関する教育課程の編成や校内研修の在り方について実践的演習を行っている。

ここでは、平成17年度の受講者の実践例を二つ示す。

### (1) 小学校での実践例

#### ア 研修計画の立案

授業での活用や機器の操作の習得を主な目標とし、夏季休業中に自主研修の形で実施した。

#### イ 研修の実際

日	主な内容
1日目	<ul style="list-style-type: none"><li>○ オリジナルTシャツを作ろう<ul style="list-style-type: none"><li>・ 児童が使うペイントソフトを使ってデザインを作る。</li><li>・ 作品をアイロンプリント紙に印刷する。</li><li>・ インクの交換法やヘッドクリーニングの仕方確かめる。</li><li>・ これからの活用法を考えながら、Tシャツにはり付ける。</li></ul></li></ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 情報モラルって何？<ul style="list-style-type: none"><li>・ チャットを体験することで操作法を身に付ける。</li><li>・ チャットの利便性と危険性を感じてもらう。</li><li>・ 「情報モラル研修教材」（独立行政法人教員研修センター）の指導案を参考に指導略案を作成し、紹介し合う。</li></ul></li><li>○ デジタルコンテンツって何？<ul style="list-style-type: none"><li>・ インターネット上のデジタルコンテンツを検索する。</li><li>・ デジタルコンテンツを使った授業を紹介する。</li><li>・ 授業場面を想定することで、今後の活用促進を図る。</li></ul></li></ul>
3日目	<ul style="list-style-type: none"><li>○ デジタルコンテンツで教材作り<ul style="list-style-type: none"><li>・ デジタルコンテンツを検索し、活用場面を想定する。</li><li>・ パワーポイントを使って教材を作成する。</li><li>・ 作品を発表し合い、互いのアイディアを共有する。</li></ul></li></ul>
4日目	<ul style="list-style-type: none"><li>○ フィールドワークをしよう<ul style="list-style-type: none"><li>・ 職員の希望する地域の企業等を訪問し、地域素材を探す。</li><li>・ デジタルカメラ等を活用し、静止画や動画を撮影する。</li></ul></li></ul>
5日目	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 郷土素材を作ろう<ul style="list-style-type: none"><li>・ 4日目に集めた素材を、Webページにまとめる。（写真1参照）</li><li>・ Webページ作成ソフトの操作法や郷土素材の活用場面を想起する。</li></ul></li></ul>

#### ウ 成果（○）と課題（●）

○ 複数テーマを設け、興味・関心に

応じた自主研修にすることで、主体的・意欲的に取り組むことができた。

○ 機器を操作する場面を取り入れたことで、操作技能の習得を図ることができた。

○ 研修の成果を発表し合うことで、活用のアイディアを共有することができ、実践への意欲を高めることができた。



写真1 完成したWebページ

- 職員の意識が継続するように、内容、時間、時期を検討する必要がある。
- 情報モラルについては、全体研修計画に位置付けて実施する必要がある。

(いちき串木野市立市来小学校上拂博文教諭の実践から)

## (2) 中学校での実践例

### ア 研修計画の立案

授業で用いる問題提示用Webページを作成すること、互いの作品を発表し、成果の共有化を図ること、Webページの利点を体感してもらうことを目標とした。

### イ 研修の実際 (2時間)

意識化	1 問題列を提示する。
	2 Webページで作った問題の利点を説明する。

追求・深化	3 Webページの作り方を説明する。
	4 Webページを作成する。 ・進度の速い人は背景や配色を工夫させる。 ・進度の遅い人にはサポートを行う。
	5 Webページを保存する。
意欲化	6 互いに作成したWebページの問題を解く。
	7 研修内容をまとめる。

### ウ 成果 (○) と課題 (●)

- 全員が授業で用いるWebページを作成することができた。
- 作成したWebページ上の問題を互いに解き合い、Webページを活用する利点を体感することができた。

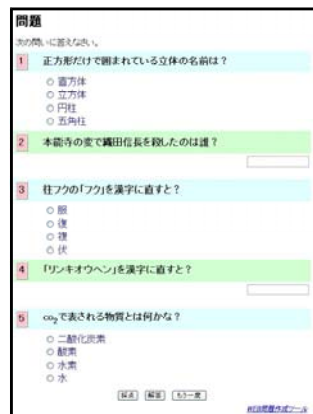


写真2 完成した問題提示用Webページ

- 年間を通して活用する問題提示用Webページを各学年や教科で作成するためには、まとまった時間が必要である。

(大和村立今里中学校中島聖了教諭の実践から)

二つとも、研修内容を選択性にしたり、研修成果の共有化を図ったりして、授業での活用を意図した実践例である。

各学校では、これらの研修例を参考に、今後も校内研修の充実に努めていただきたい。

### 【参考文献】

・文部科学省「情報教育の実践と学校の情報化～新『情報教育に関する手引』～」(平成14年6月) (情報教育研修課)